

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1870300272
法人名	医療法人 斎藤医院
事業所名	グループホーム 藤の都
所在地	福井県越前市北府3丁目7-25 (電話) 0778-25-6002

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年11月19日	評価確定日	平成21年2月3日

## 【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 10 月 8 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 13 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 13人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	2 階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

### (4) 利用者の概要(平成20年10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名		
要介護3	9 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.95 歳	最低	71 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 斎藤医院 (内科)
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

北府地域にある医療法人を母体を持つ当該ホームは、田畑と住宅地に囲まれた中に立地しています。ホーム独自の理念を掲げ、日々笑顔が絶えないような、家庭的な雰囲気あるホームをめざして、職員全員が連携を図りケアに取り組まれています。2ユニットあるホーム内では、職員が利用者の一人ひとりの意向に沿って、その人らしく暮らせるように職員配置にも配慮されています。また、住環境面でも、太陽の光が差し込む明るく広いリビングや各居室には家具と共に、トイレも設置し、自立に向けた取り組みにより、暮らしの質の向上が図られプライバシーへの配慮もなされています。医療面でも、母体の医療との連携が密となり、急変時などでも24時間対応が可能となり安心できる医療体制となっています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価に基づいて、職員間で検討し改善がなされています。食事を楽しむ支援では、利用者と職員は共に食事を楽しみ、日常的な外出支援は、重度化の中で、出来る限り外出機会を増やすように工夫し、外出できるように努めています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、2名の職員がペアとなり項目ごとに取り組まれ記載し、管理者と計画担当責任者がまとめています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回、家族代表・区長・市役所職員・訪問看護・藤の都職員が参加し運営推進会議を開催しています。ホームの活動内容・利用者の状態などを報告し、介護相談員についてや、参加者による質疑応答により意見を頂きサービスの質の向上に活かしています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議やホームへの訪問時、年間行事の際に、家族等の意見・不満・苦情などが言いやすい場となるように配慮しています。家族の意見が上がってこない事も多く、管理者、職員は、顔つきや様子を見ながら意向の把握に努めています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	区長より、地域の情報を頂き、災害訓練や地域のごみ拾い、祭りに参加しています。また、近所の方に出会うと積極的に挨拶をして交流に努めると共に、近所の方から花や野菜、柿などを頂いたりしています。年1回、「グループホーム通信」を発行し地域に配布しています。地域で防災協定を取り決めていて、災害時には、町内の受け入れ場所となっています。

## 2. 評価結果(詳細)

プライバシーに配慮した対応ができ、

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域や家庭の結びつきを大切に、明るく家庭的な雰囲気」を理念に掲げ、利用者の笑顔がたえない家庭的なホームをめざして日々支援されています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員も利用者も目につきやすいリビングに理念を掲示し意識化を図り、笑顔の絶えない日々のケアに努めています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	区長より地域の情報を頂き、災害訓練や地域のごみ拾い、祭りに参加しています。出会った近所の方々とは積極的に挨拶を交わし、花や野菜、柿などを頂くなど交流がなされています。地域向けに「グループホーム通信」を毎年発行し配布しており、地域で防災協定を取り決め、災害時の町内の受け入れ場所となっています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価に基づいて、職員間で検討し改善に繋げています。食事を楽しむ支援においては、職員は利用者と共に食事を楽しみ、外出支援は、重度化の中で来る限り外出機会を増やすようにされています。今回の自己評価は、職員がペアとなり項目ごとに取り組み記載し、管理者と計画担当責任者がまとめていま		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、家族代表・区長・市役所職員・訪問看護・職員が参加し運営推進会議を開催しています。ホームの活動内容・利用者の状態などを報告し、介護相談員についてや、参加者による質疑応答により意見を頂きサービスの質の向上に活かしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携が密で、運営推進会議への参加や、市が主催するグループホーム管理者会議等において、市からの連絡や研修、意見交換がおこなわれています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族は頻繁に来訪され、来訪時にはホームでの様子や健康状態を伝え、遠方の家族には電話で状況を伝えています。また、季刊誌「都便り」を発行し行事の案内や写真と共にお手紙を添えて送付しています。金銭管理は、管理ノートを活用し定期的に家族にレシートの返却と共に確認してもらっています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には意見・不満・苦情などが言いやすい場となるように配慮し、運営推進会議や年間行事の時などにも家族の意向を聞き出すように努めています。家族の意見が上がってこない事も多く、管理者、職員は、家族の来訪時に表情や様子を見ながら意向の把握に努めています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2年ごとに法人内で異動があり、職員との関係を築くために、馴染みの職員がサポートしています。年3回親睦会を開催し職員の交流を図るとともに、ストレス軽減のために管理者は、職員と話しをする機会を持つように努め、離職を少なくするように配慮しています。また、雇用面においても70歳までの再雇用制度を取り入れています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で、年間の研修計画が立てられ定期的に研修が行われています。外部研修では、職員の希望に沿って受講できるように配慮し、研修後は報告書を作成し資料と共に回覧し情報を共有しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政がグループホーム管理者会議を主宰し、研修、事例研究や意見交換を年に一度行い、年4回習熟度に合わせて職員研修が企画され質の向上に取り組んでいます。機会を見つけて参加するとともに、法人内グループホーム職員間で交流を行い情報を交換しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	母体の医療法人からの入居希望が多く、見学やお試し入居などの方法を取り入れ、馴染みながら利用できるように工夫しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人ひとりの持つ力を引出し、常に利用者が自信を失わないように心掛けています。家事を当番制にしたり、料理の味付けや郷土料理の作り方、吊るし柿の作りかた等を教えてもらい職員との協働により楽しく日々を過ごしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言動や心配事など話された言葉を集め、小さな思いの実現に努め、ケアプランに反映できるようにされています。家族等からも情報や要望を伺い把握しています。意志疎通の困難な方は、担当職員が表情や日々のケアの中で、思いを汲み取るように支援しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の思いや家族の要望を聞き、介護支援計画に記録しています。医師の意見を参考にし、職員、看護師の参加のもとでカンファレンスを開催して、利用者本位の介護計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、長期目標6ヶ月、短期目標3ヶ月と期間を設定して作成し、3ヶ月ごとに実施・達成状況・計画評価表を活用して、見直しが行われ、家族にも報告しています。利用者の状況に変化があればカンファレンスを開催して、随時介護計画の見直しを行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に合わせて、通院・理美容の送迎・近くの買物への支援をしています。基本的には家族の協力を得ていますが、家族が遠方である場合など柔軟に対応しています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医と協力医について説明し、家族の希望を伺いかかりつけ医を決めていただいています。母体の医療法人の協力のもと、医師の往診、訪問看護の毎日の健康チェック、緊急時の夜間対応などの体制がとられ、いつでも安心して医療が受けられます。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に終末期の支援が可能である事を家族に説明しています。家族、医療関係者、職員と話し合い家族が希望されるとグループホームでの看取りが可能であり、終末期に向けたターミナル研修を行い、対応方法を定め体制を整えています。現在までは、病院に転院希望される方が多く、ホームでの看取りはされていません。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳に配慮した対応について会議などで、確認する機会を設けています。時として損ねるような言葉づかいや対応があれば、注意し、話し合っています。居室にトイレがある事で、排泄の自立を促すことが出来、プライバシーへに配慮できています。個人情報は事務所の書庫に保管しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れが出来ていますが、職員は一人ひとりの生活リズムを大切に、利用者の意向にそった支援を心がけています。利用者間の関係を観察し機の配置など工夫をする中で、助け合いが生まれその人らしい暮らしに繋がっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会の時や遠足のお出かけ時の弁当作りには利用者から要望を聞き、職員と共に献立を立て楽しい食事となるよう配慮しています。利用者が役割を果たせるよう、食事準備や配膳を利用者が手伝い、職員と共に食事をとり楽しんでいきます。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日に1度入浴の対応をしており、利用者の希望を伺い、時には入浴剤などを使い、気持ち良く入浴できるように工夫しています。上下のフロアでの調整が出来るので希望に応じることもできます。ほとんどの方は介助が必要で、職員体制が可能となれば、入浴の機会を増やしたいと計画しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の持つ力を見極め、出来る事を役割として行えるよう工夫し、自信に繋がっています。洗面台のタオルの交換を当番制にしたり、洗濯干しや洗濯物たたみ、季節毎の作品作り等を職員と楽しく行っています。また、レクリエーションや遠足などの行事への参加で楽しみごとや気晴らし等にも配慮しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	経年の中で車いすの利用者も増え、外出の機会が少なくなっています。出来るだけ毎日の散歩や月に一度は買物や遠足に出掛けるように努めています。車椅子の方や歩行の困難な方は、交代で外出できるように配慮しています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は鍵を掛けないで日中過ごしていますが、フロア入口は、安全確保のため施錠しています。家族には、説明し同意を得ています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を実施し、1度は消防署の協力を得て行い、ホーム独自でも夜間を想定した訓練を実施しています。運営推進会議で避難訓練の協力を求め地域とのつながりを図っています。また、災害時には法人グループの協力体制が確立されていて、緊急時の対応が図れるように取り組まれています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人で作られた献立をホーム独自の献立にアレンジして調理しています。食事・水分摂取量は、チェックシートに記録して利用者の状況を把握し、必要な利用者にはきざみ食や軟食、トロミなど食事がすすむように配慮しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆が集うリビングには、利用者と職員が協働で作った季節ごとのはり絵やカレンダー、行事ごとに撮った写真などが掲示されています。利用者が何時でも気軽にくつろげるように、リビングや廊下、台所などに椅子を置かれ、ベランダからは、田畑が眺められ季節の移り変わりが感じられます。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適な住環境となっていて、ベット・タンス・テーブルは備え付けで、洗面所・トイレも設置されています。窓には、障子を取り付けてあり落ち着いた雰囲気となっています。利用者が使いなれた馴染みのものを持参され居心地よく過ごせるように工夫しています。		